

Library information 図書館だより

○中央図書館 (LIC はびきの内) 軽里 1-1-1 ☎072-950-5501
 ○陵南の森図書館 島泉 8-8-1 ☎072-952-2750
 ○羽曳が丘図書館 羽曳が丘西 2-5-1 ☎072-957-5553
 ○丹比図書館 檜山 251-1 ☎072-937-2355
 ○東部図書館 古市 1541-1 ☎072-950-2002
 ○古市図書館 ☎072-958-0050 (休) (金) (出) (日) 10:00 ~ 17:30
 ○ブックステーションはびきのコロシアム ☎072-937-7210 (休) (金) 13:30 ~ 16:30

●開館時間 10:00 ~ 18:00 (※中央図書館は 10:00 ~ 20:00)

☆ 読んでみませんか?

『マスクをとったら』
 いりやま さとし/作 講談社
 「かえるくんは、マスクを取ったら何がしたい?」「ライオンくんは?」動物たちや子どもたちがそれぞれに思い描く、マスクがいなくなったらやりたいことは…。



『ふしぎ駄菓子屋銭天堂によろこ』
 廣嶋 玲子・jyajya / 作 偕成社
 子どもから大人まで、大人気の銭天堂シリーズ・公式ガイドブックです。14巻までに登場する全ての駄菓子が出てくる図鑑は、ぜひ、それぞれのお話を読んでからご覧くださいね。



陵南の森図書館 開館時刻の臨時変更のお知らせ

陵南の森図書館は、電気設備の点検に伴う停電のため、下記のとおり臨時に開館時刻を変更させていただきます。
3月29日(月) 11:00より開館

あなたのおすすめ本・巡回展示中

昨秋の読書月間に皆さんから寄せられた「おすすめ本」を巡回展示しています。3月30日(火)まで 丹比図書館

おはなし会 (3月)		
中央図書館	14日(日) 20日(土) 28日(日)	13:30 ~
陵南の森図書館	14日(日) 21日(日) 28日(日) 20日(土)	11:00 ~ 15:00 ~
東部図書館	10日(火)	10:30 ~
古市図書館	20日(土)	15:00 ~
丹比図書館	27日(土)	10:30 ~
羽曳が丘図書館	13日(土) 27日(土)	15:00 ~

今月の特集テーマ	
中央図書館	一般 さくらの本 児童 春のほん
陵南の森図書館	一般 コロナ禍の今 見て読んで旅気分! 児童 ありがとうとさようならの本
東部図書館	からだの本 ~元気に過ごそう!~
古市図書館	これぞ職人技! 日本の伝統工芸
丹比図書館	みんなのおすすめ本
羽曳が丘図書館	別れと出会い

◇春休み!おはなし大会

日時 3月27日(日) 13:30 ~
 場所 中央図書館 多目的室
 [おはなし] 羽曳野市子ども文庫連絡会・おはなしの森の皆さん
 ① 13:30 ~
 幼児~8才くらい向き
 「王子様の耳はロバの耳」ほか
 ② 14:15 ~
 9~12才くらい向き「魔法の馬」ほか
 ③ 15:00 ~
 10才~大人向き「ウサギとオオカミ」ほか
 定員 各10名(当日先着順)
 ※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、イベントを中止または延期することがあります。
 ※参加される方は、マスクの着用や消毒など、感染症対策にご協力をお願いいたします。

今月の休館日は3月31日(火)
 市内の図書館は全て休館となります。

◇ちびっこサロン 日時 3月10日(火) 10:30 ~
 場所 森のゆうびんきょく

サラダボール

昨年(しんねん)の2月(がつ)から急激(きゅうげき)に感染(かんせん)が拡大(かくだい)した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は私(わたし)たちの日常生活(にちじょうせいかつ)を一変(いっぺん)させ、これまでの生活様式(せいかつようしき)を続けることができなくなりました。特に社会的(しゃかいてき)に弱者(じやくしゃ)とされる人達(ひとたち)の生活(せいかつ)が脅(おびや)かされています。学校(がっこう)が一斉(いっせい)休校(きゅうこう)になった子(こ)どもたち。大学生(だいがくせい)は授業(じゅぎょう)のほとんどが自宅(じたく)のパソコンを通してオンライン授業(じゅぎょう)に置き換(か)わり、期待(きたい)に胸(むね)を膨(ふ)らませていた学生生活(がくせいせいかつ)の多くを失(う)いました。感染対策(かんせんだいさく)は私(わたし)たちの日頃(ひごろ)の繋(つな)がり(ぶんだん)を分断(ぶんだん)することにもなりました。別居(べっきょ)している家族(かぞ)や友人(ゆうじん)との交流(こうりゅう)が途絶(とだ)え、社会的孤(しゃかいてき)立(りつ)が進(すす)んでいるかもしれません。高齢者(こうれいしゃ)は社会的な活動(しゃかいてき)が制限(せいげん)されたことで身体機能(しんたいき)の低下(ていか)が危惧(ききん)されます。また、飲食業(いんじしょくぎょう)能(のう)の低下(ていか)が危惧(ききん)されます。また、飲食業(いんじしょくぎょう)

を中心(ちゅうしん)とした中小(ちゅうしょう)・零細(れいさい)企業(きぎょう)の活動(かつどう)停滞(たいど)により、不安定雇用(ふあんていこいう)の外国人労働者(がいこくじんろうどうしや)や非正規(ひせいぎ)の労働者生活(ろうどうしやせいかつ)が困窮(こんきゅう)化(か)していると報道(ほうどう)がなされています。一方(いつぱう)、少(す)視点(してん)を広(ひろ)げて今(こん)回の感染(かんせん)症(しやう)を考(かんが)えてみたい(みたい)と思います。経済思想(けいぎしやう)史研究(しけんきゅう)者の齋藤幸平氏(さいとうこうへいし)は著書(しよしょ)『人新世(じんしんせい)の『資本論(しほんろん)』で、先進国(せんしんこく)において増え続ける需要(じゅぎょう)に応(こた)えるために、資本(しほん)は自然(しぜん)の深(ふか)くまで入(はい)り込(こ)み、森林(しんりん)を破壊(はかい)し、大規模農(だいきぼのう)場(ば)経営(けいぎやう)を行う。自然(しぜん)の奥(おく)深くまで入(はい)れば、未知(みち)のウイルス(ういる)との接(せつ)触(じゆく)機会(きかい)が増(ま)えるだけではない。自然(しぜん)の複雑(ふくざ)な生態(せいがい)系(けい)と異(こと)なり、人(ひと)の手(て)で切り拓(きりひら)かれた空間(くうかん)と、とりわけ現代(げんたい)のモノカルチャー(もんかるちや)が占(し)める空間(くうかん)は、ウイルス(ういる)を抑(おさ)え込(こ)むことができない。そして、ウイルス(ういる)は変異(へんい)していき、グロ一バル化(ぐろーばるか)した人(ひと)と物(もの)の流れ(な)に乗(の)って、瞬間(しゆん)間的(かんてき)に世界(せかい)中に広(ひろ)がっていく。』(集英社(しゆえいしゃ)、2020年)と述べました。

齋藤氏(さいとうし)に倣(なら)えば、コロナ禍(か)は私(わたし)たちが「当たり前(あたりまえ)」として豊(ゆた)かさ(あま)さを享受(きやうじゆ)する社会(しゃかい)システム(しすてむ)が招(まね)いた厄災(やくさい)と言える(い)かもしれません。24時間営業(24じゆんかんえいぎやう)しているコンビニエンスストア(ちんべいえんすすとあ)、注文(ちゆうもん)すると翌日(あした)に届(とど)く物流システム(ぶつりゅうシステム)、安(やす)くて品質(ひんしつ)の良いファストファッション(よいファストファッション)。私(わたし)たちはこれら(これら)の豊(ゆた)かな社会(しゃかい)を維持(維持)する(ため)に「どこか(どこか)」「誰(だれ)か(誰か)」に負担(ふたん)をかけてしま(か)っているの(の)かも知(し)れません。コロナ禍(か)が私(わたし)たちに突(つ)きつ(つ)けているのは、目の前(め)の生活課題(せいかつかだい)をどう解決(かいけつ)するかということ、そして未来(みらい)の私(わたし)たちの社会(しゃかい)をどう志向(しやうきやう)すべき(すべき)なのか、という点(てん)です。その為(ため)には「当たり前(あたりまえ)」として認識(にんしき)してきた(きた)これまでの社会活動(しゃかいてき)に疑問(ぎもん)を持ち(もち)、さらに視野(しや)を広(ひろ)げて行(こう)動(どう)していく必要(ひつよう)がある(あ)るの(の)かも知(し)れません。

はびきのしんけんけいはつすいしんきやうぎかい
 羽曳野市人権啓発推進協議会